学内向け試験費用

試験名称	試験概要	装置スペック	機器使用料	備　考
振動試験	ロケット打ち上げの際の振動に耐えられることを検証する	センサーは24chまで 25ch以上は要相談	15,000円/日	消耗品費用(実費)を別途徴収※1
衝撃試験	ロケットから切り離す際の分離衝撃に耐えられることを検証する	10cm級、50cm級の衝撃試験	20,000円/日	消耗品費用(実費)を別途徴収※1
熱真空試験(大)	軌道上で予測される条件より厳しい温度環境条件下で、衛星が性能を発揮できることを検証する	シュラウド内径1.5m、到達圧力1.0x10-5Pa,液体窒素シュラウド付き	12,000円/日	消耗品費用(実費)を別途徴収※1
熱真空試験(小)	軌道上で予測される条件より厳しい温度環境条件下で、衛星が性能を発揮できることを検証する	試験可能サイズ15cm x 15cm x 30 cm, 到達圧力1.0x10-5Pa, 液体窒素シュラウド付き	12,000円/日	消耗品費用(実費)を別途徴収※1
熱平衡試験(大)	衛星の熱設計の妥当性の確認及び熱数学モデルの検証を行なう	シュラウド内径1.5m、到達圧力1.0x10-5Pa,液体窒素シュラウド付き	12,000円/日	消耗品費用(実費)を別途徴収※1
熱平衡試験(小)	衛星の熱設計の妥当性の確認及び熱数学モデルの検証を行なう	試験可能サイズ15cm x 15cm x 30 cm, 圧力1.0x10-5Pa, 液体窒素シュラウド付き	12,000円/日	消耗品費用(実費)を別途徴収※1
熱サイクル試験(大)	衛星および衛星部品に対して高温と低温に繰り返し曝す事で、供試体の耐久性を検証する試験	ー190°Cから200°Cまで試験可能. 温度プロファイルについては任意のプロファイルが設定可能	12,000円/日	消耗品費用(実費)を別途徴収※1
熱サイクル試験(小)	衛星および衛星部品に対して高温と低温に繰り返し曝す事で、供試体の耐久性を検証する試験	ー190°Cから200°Cまで試験可能. 温度プロファイルについてには任意のプロファイルが設定可能	12,000円/日	消耗品費用(実費)を別途徴収※1
真空中機能試験	衛星に使用する部品, 素子等の真空環境下で動作することを検証する	到達圧力5.0x10-5Pa	5,000円/日	消耗品費用(実費)を別途徴収※1
加圧コンポーネント 圧力試験・リーク試験	圧力容器等が要求通りの耐圧とリークレートをもつことを検証する	試験可能サイズ:15cmx15cmx15cm 真空容器背圧:1Pa	10,000円/日	消耗品費用(実費)を別途徴収※1
アウトガス試験	ASTM E-595に準拠したアウトガス測定を実施する	ASTM E-595に準拠	100,000円/回	消耗品費用は機器使用料に含む 1回につき6検体まで測定可 測定1回につき1週間
熱光学特性試験	太陽光吸収率および垂直放射率の測定	測定波長範囲 太陽光吸収率:0.25～2.5 μm 垂直放射率:2.5～100 μm	12,000円/データ 1検体につきαを2回、 εを2回測定の場合、 12,000×4=48,000円	消耗品費用及びオペレータ費用は機器使用料に含む イレギュラーなサンプルについては割増→相談要 納期:1か月以上
共同利用研究　※6	各衛星試験設備の共同利用	超小型衛星試験センターの共同利用申請を行い、採択を得た研究に限り、センター保有試験装置を無料で使用出来ることとする。	基本的に無料※2	特殊な機材、消耗品等を使用する場合、相談の上、実費請求あり

利用料金は予告なく改訂することがあります。
熱光学特性試験を除き、機器の操作を利用者が行なうことを前提とします。
※1:消耗品費用とは液体窒素、専用冶具の作成、センサー類の追加分等を指します。
※2:特殊な機材、消耗品等を使用する場合は、予め共同利用申請を行う際に相談を行う事。
※6:現在は募集を停止しています。